

New Crown 第2回 Lessons

Lesson 2-1: 主語になる代名詞の使い分け

代名詞とは名詞の代わりに使われる単語です。be 動詞の文の作り方について学ぶ前に、主語になる代名詞について学んでいこうと思います。

【英語でよく登場する代名詞】

私 / 私たち / あなた / あなたたち / 彼 / 彼女 / 彼ら / 彼女ら / これ / それ / あれ / これら / それら / あれら

<例> ハナコさん → 彼女 生徒たち → 彼ら・彼女ら 私と弟 → 私たち
私の机 → これ・それ・あれ 3本のペン → これら・それら・あれら

【主語となる英語の代名詞】

今回学ぶ、主語となる英語の代名詞は以下の11個。

I / you / we / they / he / she / it / this / that

私 → I あなた・あなたたち → you 私たち → we 彼 → he 彼女 → she
彼ら・彼女ら・それら → they *それ → it (ペットは he/she が主に使われる)
これ → this (「この(形)」にもなる) *それ・あれ → that (「その・あの(形)」にもなる)

*it / that は、両方とも「それ」と訳されることがあり、同じような意味で使われることも多い。

Lesson 2-2: be 動詞の肯定文① (I / you / we / they)

英語には「be 動詞の文」「一般動詞の文」など様々な種類の文の形があるのですが、今回は文の主語(文章で基本的に「○○は」「○○が」にあたる部分)が I, you, we, they の時の be 動詞の肯定文について学んでいきます。

【be 動詞の主な特徴】

- (1) 「存在」を表す。
- (2) = (イコール) の役割を果たすともいわれている。
- (3) 一般動詞(「食べる」「歩く」など日本語で言う動詞)がない文で使われる。
- (4) ここで覚える be 動詞は2種類(am/are)。「主語」によって使い分けされる。

【be 動詞の肯定文：基本の形】

主語 + be 動詞 + ○○.

(意味: 「主語は○○です」「主語は○○でした」)

<○○の部分には「形容詞」「名詞」「形容詞+名詞」などが入る>

<例> I am Wataru. (私はワタルです)
<主語> <be 動詞> <固有名詞>

You are smart. (あなたは賢いです)
<主語> <be 動詞> <形容詞>

<be 動詞の種類：am / are>

(1) am

- ・主語が **I** の時に使われる。
- ・基本的な形： I am ~ (短縮形： I'm ~.)

<例> 私はヒカルです。 I **am** Hikaru. 私は先生です。 I **am** a teacher.

(2) are

- ・主語が **you / we / they** の時に使われる。
(「My students = they」のように、上の代名詞に言い換えられる主語も含む)
- ・基本的な形： You are ~. (短縮形： You're ~.) We are ~. (短縮形： We're ~.)
They are ~. (短縮形： They're ~.)

<例> あなたは背が高いです。 You **are** tall.
彼と私は忙しいです。 He and I **are** busy. (He and I = we)
彼女らは良い生徒たちです。 They **are** good students.

Lesson 2-3: 「一般動詞の文」と「be 動詞の文」

一般動詞とは、日本語でいう「動詞」のことを言います。つまり「食べる」「歩く」といった動作を表す単語です。これらの単語が入る文が「一般動詞の文」となります。

【一般動詞とは】

- (1) 動作や状態を表す単語 (基本的に「う段」の音で終わる)

<例> 食べる / 飲む / *好き / *ほしい

〔*日本語で言う『動詞』は基本的に「う段」の音で終わるが、like (好き) や want (ほしい) は例外。
あえて言うのであれば「好む」「求める」となる。〕

また、英語の文章は (今の段階では)

「一般動詞が入らない文 (be 動詞の文)」と
「一般動詞の入る文 (一般動詞の文)」とに分けられます。

<一般動詞の入らない文 (be 動詞の文) の例>

私は医者です。 彼は背が低かったです。 あの学校は古くないです。
(日本語でいう「動詞」が入っていない)

<一般動詞の入る文 (一般動詞の文) の例>

私は走ります。 彼女は英語を教えます。 彼はギターを弾きます。
(「走る」「教える」「弾く」は、日本語でいう『動詞』)

Lesson 2-4: 一般動詞の肯定文① (I / you / we / they)

英語の文は「be 動詞の文」と「一般動詞の文」に分けることができ、更に「一般動詞」の文は2種類に分けることができます。これは、主語によって分かります。

英語の文

- ① be 動詞の文
- ② 一般動詞の文
 - (a) 主語が I, you, we, they (またはこれらの代名詞に置き換えられる単語) の場合
→ 一般動詞の形が変わらない (今回練習!)
 - (b) 主語が he, she, it (またはこれらの代名詞に置き換えられる単語) の場合
→ 一般動詞の形が変わる (今度練習)

【一般動詞の肯定文① <I/you/we/they> : 基本の形】

I
You + 一般動詞 (+*目的語) (+~) .
We
They

*目的語=動作の対象となるもの

- <例> I run. (私は走ります)
I study English. (私は英語を勉強します)
【目的語 (study の対象) =English】
They like ⁽¹⁾apples, too. (彼らも、りんごが好きです)
【目的語 (like の対象) =apples】
We play ⁽²⁾the piano. (私たちはピアノを弾きます)
【目的語 (play の対象) =the piano】
Rei and I want this coffee. (レイと私はこのコーヒーが欲しいです)
【目的語 (want の対象) =this coffee】

- (1) 「可算名詞」で一般的なことを言う場合、「複数形」が用いられることが多い。
 <例> They like apples. (彼らはりんごが好きです) (They like an apple. =×)
 I like blue cars. (私は青い車が好きです) (I like a blue car. =×)
- (2) 「楽器を弾く」「楽器を練習する」という場合、基本的に“play the 楽器”
 “practice the 楽器”の形になるので注意！

《注意事項》

日本語とは異なり、「一般動詞」と「目的語」の足される順番が違うので注意。

- ・日本語： 私は英語を勉強します。(主語 + 目的語 + 一般動詞)
- ・英語： I study English。(主語 + 一般動詞 + 目的語)

【ポイント！】

主語が入らない「命令文」

一般動詞の文章で、主語を入れないと「～して」「～してください」といった意味の命令文として使うことができます。

- <例> You study English. (あなたは英語を勉強します)
 Study English. (英語を勉強して)

自己紹介でニックネームを紹介する時などに Call me ○○ (私を～と呼んでください) というのは、よく使われるフレーズなので、しっかり覚えておきましょう！

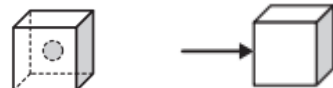
- <例> I'm David. Call me Dave. (私はデイビットです。デイブと呼んでください)

Lesson 2-5: 前置詞① (to / in / from)

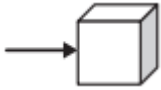
【前置詞とは？】

- (1) to / in / from などがある。
- (2) 日本語で「～に」「～で」「～から」と主に訳される。
- (3) 基本的に「前置詞＋名詞」の形で使われる。
 <例> 私の教室で = in my classroom (前置詞＋名詞)
 日本から = from Japan (前置詞＋名詞)
- (4) 前置詞を理解するポイントは前置詞のイメージすること。

- <例> to = どこかに向かいたどり着くイメージ
 in = 何かの中にあるイメージ



1. to = ~へ / ~に / ~まで <どこかに向かってたどり着くイメージ>



<例> I go to my classroom. (私の教室へ行きます)

We go to America. (私たちはアメリカに行きます)

【例外1】 ~ to school (学校に ~) <go to school / come to school など>

「学校へ行く」「学校へ来る」というのを「通学」「登校」という意味で使う場合、基本的に『a/an (冠詞)』や『所有格』はつけない。そのため、“go to a school”や“come to my school”といった形にはならない。

【例外2】 go home (帰宅する) (go to home = ×)

home は、名詞で「自宅」という意味もあるが、ここでは「*副詞」として使われるため、前置詞は付かない(基本的に前置詞は名詞の前につくもの)。

*副詞とは、動詞 / 形容詞 / 別の副詞などを修飾する。ここで登場する home は、動詞「行く」を修飾する「家へ」という意味になる。



2. in = ~ (グループ・部屋・市町村・国などの中) に

<ある程度大きなエリアやケースに入っているイメージ>

<例> We are in Japan. (私たちは日本にいます)

I am in Tochigi. (私は栃木にいます)

3. from = ~から / ~出身 <どこかから出発するイメージ>



<例> I am from Japan. / I come from Japan. (私は日本出身です)

Lesson 2-6: 副詞

「副詞」とは、動詞や形容詞などを説明する単語で、場所・方法・頻度などを表します。例えば、「時々」「いつも」「ここで」「とても」といったものがあります。また2つ以上の単語が繋がった「副詞句」(ここでは「句=グループ」と思ってもらえればOKです) というものもあります。大きな特徴として、基本的に、**副詞・副詞句の前には「前置詞」は基本的につかない**ということ覚えておく必要があります。そして、副詞と副詞句は、文の最後に使われたり、文の途中で使われたりします。

<文の後半に足される副詞・副詞句>

副詞	意味
here	ここに / ここで
there	そこに / そこで / あそこに / あそこで
now	今
*(',') too (一般的に文の最後)	～も
every ~ (every day など)	毎 ~ (毎日など)

*カンマが打たれない場合もある。また、同じ文であっても文脈によって意味が異なるので注意。

<例> A: I play baseball. B: I play baseball, too. (A: 私は野球をします。 B: 私も野球をします)
I play basketball. I play baseball, too. (私はバスケをします。私は野球もします。)

<例> We go there. (私たちはそこに行きます) <We go to there. = ✕>
They like sushi, too. (彼らはお寿司も好きです) (彼らもお寿司が好きです)
I study English every day. (私は毎日英語を勉強します) <I study English in every day. = ✕>

【ポイント！】

副詞・副詞句につけられる前置詞

from のように、前置詞を足すことによって別の意味が足される場合、前置詞をつけることが可能となります。

<例> We go from there. (私たちはそこから行きます)

2つ以上『副詞』『副詞句』が足される時の順番

前置詞の時同様、『副詞』『副詞句』『前置詞のフレーズ』が2つ以上登場する場合、決まったルールはないですが「場所」→「時」の順番で足されることが多いです。

<例> We go there every day. (場所 → 時)

<文の途中で足される副詞>

副詞	意味
just	ただ ~ / ~だけ / たった ~
often	しばしば / たびたび
sometimes	時々 / たまに
always	いつも

【足し方】

文の途中で足される副詞は、「be動詞の文」と「一般動詞の文」とで入る場所が異なります。

be動詞の肯定文 = be動詞の後に足される

<例> I am just hungry. (私はただお腹が空いているだけです)

一般動詞の肯定文 = 一般動詞の前に足される

<例> We sometimes play soccer. (私たちは、時々サッカーをします。)